

取組の概要

対象畜種

豚

協議会構成員

畜産農家：(株)平田牧場、全農山形県本部
 耕種農家：鶴岡市農業協同組合、庄内たがわ農業協同組合、庄内みどり、農業協同組合、酒田市袖浦農業協同組合、全農山形県本部
 利活用関係者：余目町農業協同組合、北日本くみあい飼料(株)
 オブザーバー：酒田市、遊佐町、山形県庄内総合支庁農業技術普及課、酒田農業技術普及課、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会

飼料用米生産面積

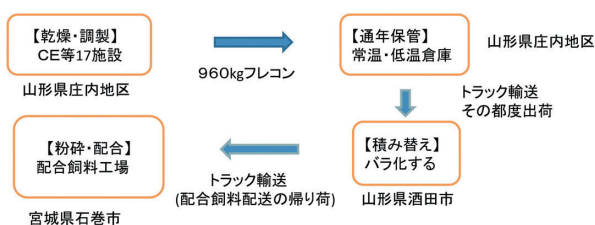
339.2ha

供試品種

ふくひびき	309.3ha
べこあおば	5.2ha
はえぬき	12.2ha
あきたこまち	12.5ha

取組内容

① 飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆ 不正規流通防止を図るため、収穫物はCEに全量集荷し、乾燥調製した。
- ◆ 1.8mm網で粒度選別を実施し、網下の玄米は水分が高目な場合があることから早期出荷。
- ◆ 保管倉庫は、通年使用のため低温倉庫を含めた通年保

管体制を敷いたが、主食用米の在庫が多く、営業倉庫など手当てに苦労した。

- ◆ 20年産の作付面積は339ha、635名にも及ぶことから、庄内地区での飼料用米共同計算を実施し、販売代金の精算業務の簡素化を図った。
- ◆ 一部CEでのサイロ保管を行ったが、近年は特別栽培米の種類が増えるなどして、収容容量はあっても、区分するためのサイロ本数に余裕がなく、飼料用米のサイロ保管は十分に出来なかった。
- ◆ 原料(玄米)は北日本くみあい飼料(株)(宮城県石巻市)に運ばれて粉碎配合されるが、その飼料工場から配合飼料を庄内に配送した車に、保管倉庫から出荷したフレコン玄米をバラ積みして運送することで、経費節減を図っている。

② 飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：配合飼料に5%配合。肥育豚に対して121日齢から出荷まで給与。

- 調査項目：
- (1) 発育試験 FC(飼料要求率)、DG(増体/日)
 - (2) 品質管理担当者による評価
脂肪と赤みの色
脂肪と肉のしまり
枝肉の総合評価
 - (3) 理化学分析
一般分析
肉・脂肪色
脂肪酸組成

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- CEを利用しての乾燥調製のため、栽培品種は早生と晩生に分けて、一般主食米の荷受時期を回避することが必要ですが、品種が増えることは作業効率が損なわれることから、早生品種の収穫時期を最後に回す方法(立毛乾燥も進む)も有効と思われます。
- 一年を通じての供給となることから、玄米水分が高い粒厚1.8mmで区分調製を行い、網下のは早期出荷した。しかし、近年の調製水分は15%以下と下がっており、そこまでの対応は必要ないのではないかとわれ、今後検証試験を行いたいと思います。
- コスト削減のため、飼料用米(フレコン入り)を保管倉